

# 2022年3月期 第2四半期決算説明会

---



関東電化工業株式会社

(東証1部 4047)

2021年11月22日

# 説明内容

---

1. 2022年3月期 第2四半期決算の概要
2. 業績の見通し・今後の動向

※増減率を除き、表示単位未満は切り捨てて表示

## 決算のポイント

---

- **販売は総じて堅調。精密化学品事業の販売数量が増加したことに加え、基礎化学品事業や鉄系事業の販売もコロナ前の水準に回復。**
- **費用面では、無水フッ酸、タングステン、リチウム化合物などの主要原材料価格が上昇。固定費は修繕費などが想定より減少。**
- **半導体不足については、現時点で大きな影響はない。**

# 損益計算書

(単位：億円)

	2020/9	2021/9	差額
売上高	243	282	38
営業利益	18	44	25
純利益※	8	30	22

※親会社株主に帰属する四半期純利益

## 【売上高】（+ 38 億円）

- ・基礎化学品事業は、販売数量の増加により増収（+11.1億円）
- ・精密化学品事業は、一部製品の販売価格は低下したが、販売数量の増加により増収（+28.5億円）
- ・鉄系事業（+4.3億円）、商事事業（△7.9億円）、設備事業（+1.8億円）

## 【営業利益】（+ 25 億円）

- 基礎化学品事業（+0.3億円）、精密化学品事業（+21.3億円）
- 鉄系事業（+1.7億円）、商事事業（+0.1億円）、設備事業（+0.6億円）

# 貸借対照表

(単位：億円)

	2021/3	2021/9	増減
<b>資産</b>	<b>923</b>	<b>971</b>	<b>48</b>
現金及び預金	236	243	6
営業債権	148	151	3
棚卸資産	105	114	9
固定資産(有形+無形)	321	345	24
<b>負債</b>	<b>399</b>	<b>415</b>	<b>16</b>
有利子負債	269	261	△7
営業債務	66	77	11
未払法人税等	5	13	7
<b>純資産</b>	<b>524</b>	<b>556</b>	<b>32</b>
(自己資本比率)	55.2%	55.6%	0.4%

# 基礎化学品事業部門

(単位：億円)

	2020/9	2021/9	差額
売上高	26	37	11
営業利益	△1.1	△0.8	0.3

## 【売上高】

- ・か性ソーダ・・・販売価格は低下したが、販売数量の増加により増収
- ・塩酸・・・販売価格は低下したが、販売数量の増加により増収
- ・トリクロールエチレン・・・販売価格は低下したが、販売数量の増加により増収
- ・パークロールエチレン・・・販売数量は減少したが、販売先の構成差により増収

## 【営業利益】

- ・増収効果はあるが、原材料価格の上昇の影響を受け若干の増益にとどまる

# 精密化学品事業部門

(単位：億円)

	2020/9	2021/9	差額
売上高	191	219	28
営業利益	17	39	21

## 【売上高】

- ・三フッ化窒素・・・販売数量の減少により減収
- ・六フッ化タングステン・・・販売価格の低下により減収
- ・ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン・・・販売価格は低下したが、販売数量の増加により増収
- ・六フッ化リン酸リチウム・・・販売数量の増加により増収

## 【営業利益】

- ・原材料価格上昇の影響を受けたが、増収効果に加え、前年同期は棚卸資産評価損を計上したこともあり増益

# 鉄系・商事・設備事業部門

(単位：億円)

	2020/9	2021/9	差額
売上高	26	24	△1
営業利益	1	5	4

## 【鉄系事業】

キャリアーおよび鉄酸化物の販売増加により増収

## 【商事事業】

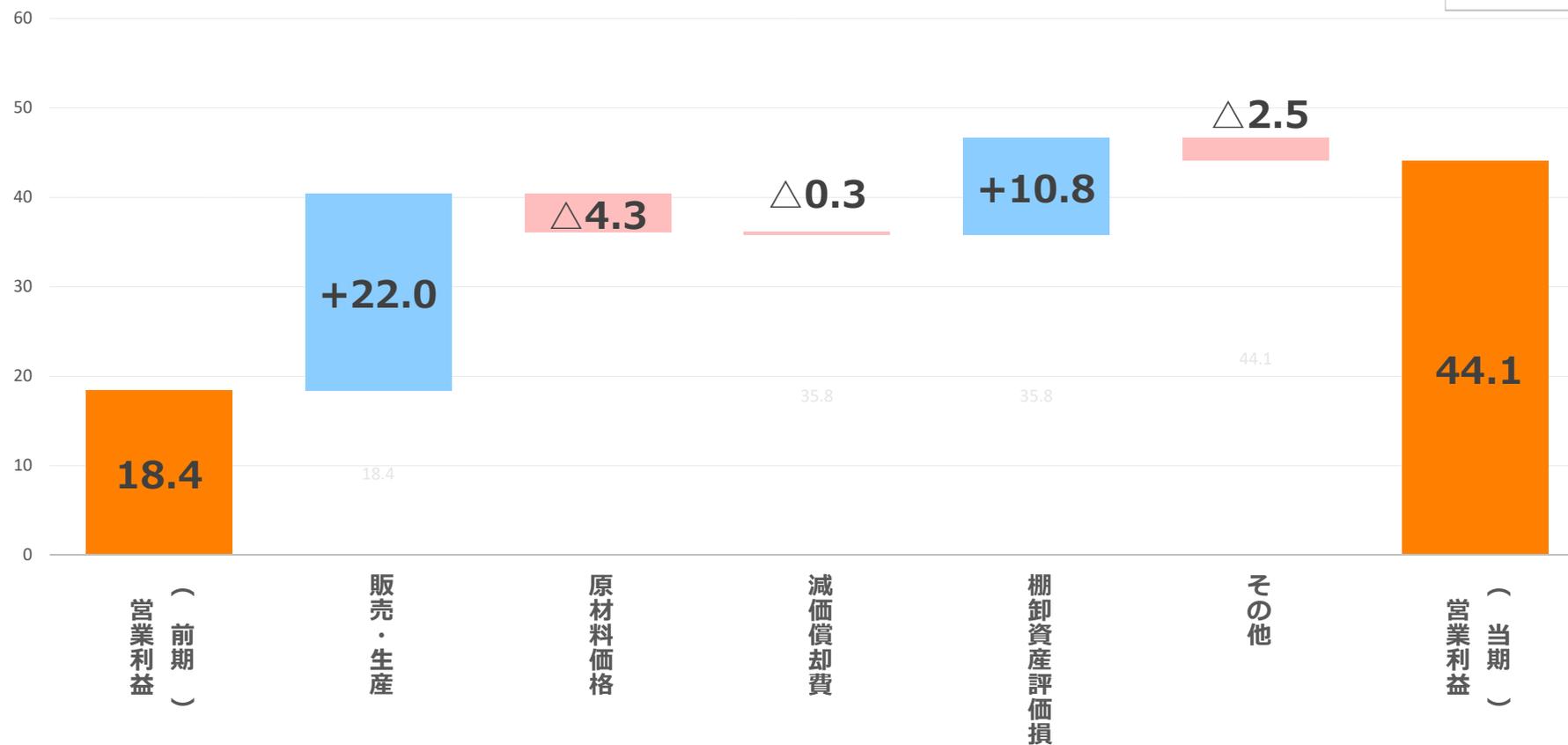
収益認識基準適用の影響により減収

## 【設備事業】

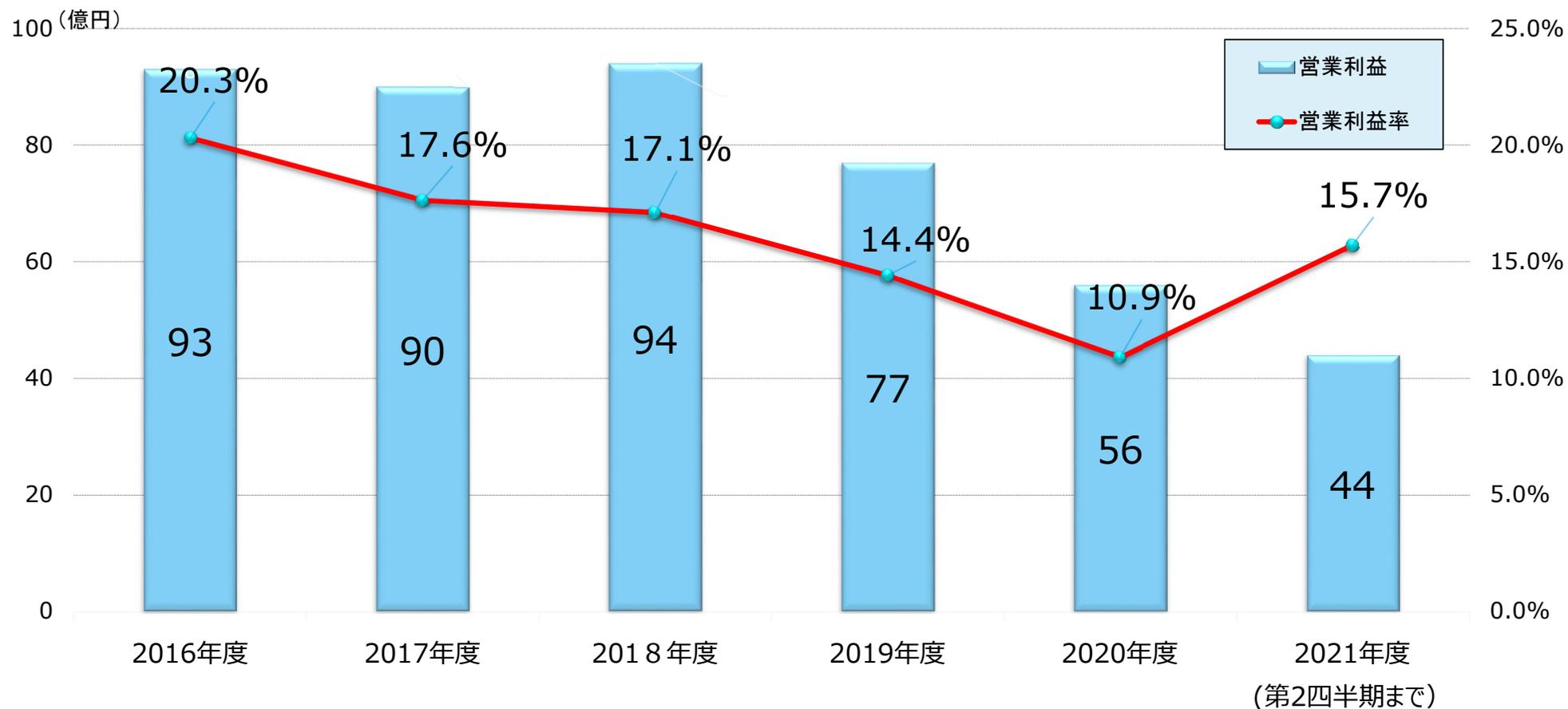
連結子会社である上備製作所の請負工事増加により増収

# 連結営業利益差異分析(2020/9 対 2021/9)

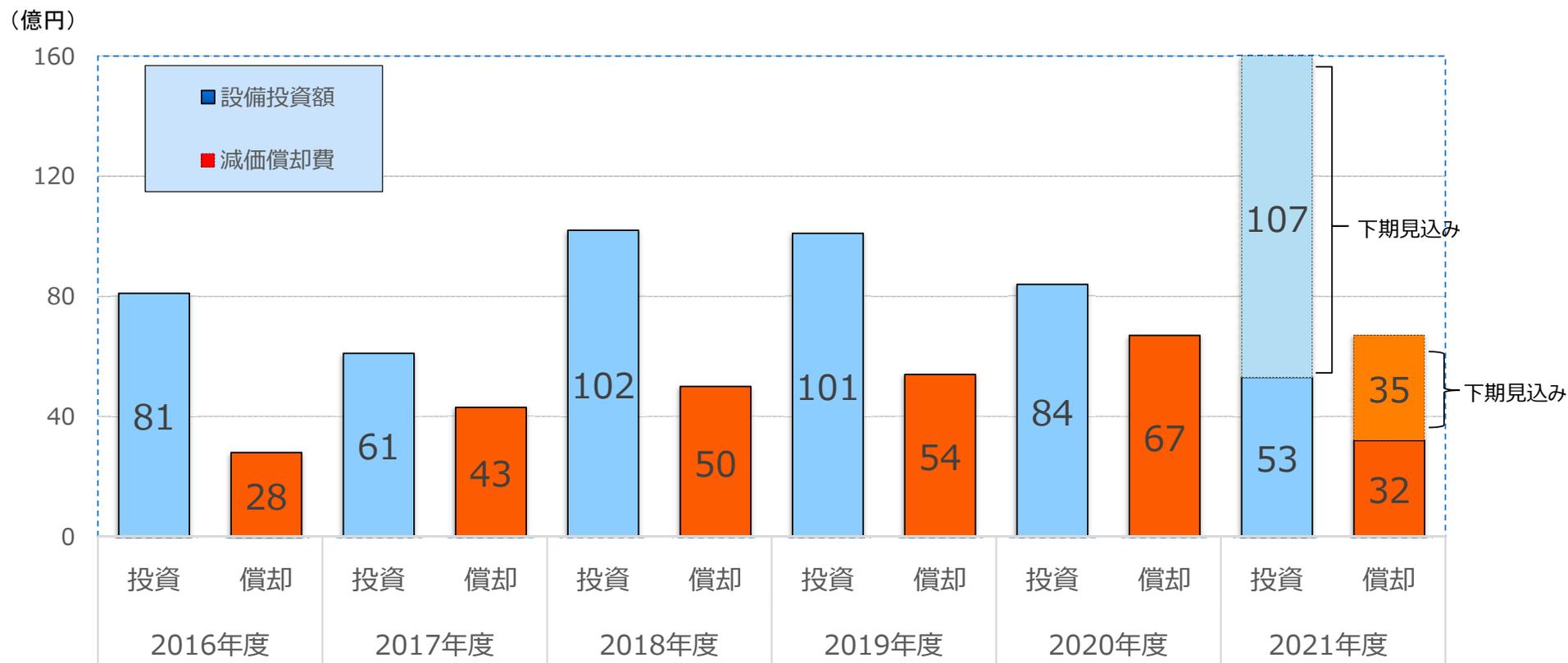
(単位：億円)



# 営業利益と営業利益率の推移（連結）



# 設備投資・減価償却費の推移（連結）



# 関東電化グループ（連結子会社）

(単位：億円)

	資本金	出資 比率(%)	2021年上期 売上高	前年同期比	主要な事業内容
関電興産（株）	10	100.0	38	6	化学工業薬品の販売および容器整備、 保険代理店
（株）上備製作所	120	49.4	21	△0	化学工業用設備の製作・加工・修理
森下弁柄工業（株）	27	99.3	3	0	鉄酸化物の製造販売
関東電化KOREA（株）	3億ウォン	90.0	61	△7	フッ素系製品の販売
台湾関東電化股份有限 公司	7百万NTドル	100.0	23	1	フッ素系製品の販売
関東電化ファインプロダク ツ韓国（株）	295億ウォン	100.0	10	6	フッ素系製品の製造・販売
宣城科地克科技有限公 司	50百万ドル	96.8	—	—	フッ素系製品の製造・販売
		<b>合計</b>	<b>159</b>	<b>8</b>	

# 事業セグメント

名 称		内 容
基礎化学品 事業	無機製品	か性ソーダ、塩酸、次亜塩素酸ソーダ、塩化アルミニウム等
	有機製品	トリクロールエチレン、パークロールエチレン、塩化ビニリデン、シクロヘキサノール等
精密化学品 事業	フッ素系製品	六フッ化硫黄、四フッ化炭素、三フッ化メタン、六フッ化エタン、三フッ化窒素、ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン、八フッ化プロパン、六フッ化タンゲストン、四フッ化ケイ素、三フッ化塩素、八フッ化シクロブタン、モノフルオロメタン、硫化カルボニル、五フッ化ヨウ素、六フッ化リン酸リチウム、ホウフッ化リチウム等
鉄系事業	鉄系製品	キャリアー、マグネタイト、顔料、鉄酸化物等
商事事業	関電興産(株)	化学工業薬品の販売および容器整備、保険代理店業務等
設備事業	(株)上備製作所	工場プラント建設、工場設備保全工事等

# 説明内容

---

1. 2022年3月期 第2四半期決算の概要
2. 業績の見通し・今後の動向

※増減率を除き、表示単位未満は切り捨てて表示

# セグメント別業績予想（連結）

（単位：億円）

	売上高			営業利益		
	2021/3 実績	2022/3 当初見込	2022/3 見直し後見込	2021/3 実績	2022/3 当初見込	2022/3 見直し後見込
<b>基礎</b>	57	59	77	△2	△2	△2
<b>精密</b>	403	451	474	53	69	80
<b>その他※</b>	58	59	52	5	3	10
<b>合計</b>	519	569	603	56	70	88
<b>設備投資費</b>	84	137	160			
<b>減価償却費</b>	67	69	67			
<b>研究開発費</b>	14	17	16			

【業績予想前提】  
為替レート：110円/\$

※その他には、鉄系事業、商事事業、  
設備事業および連結調整を含みます。

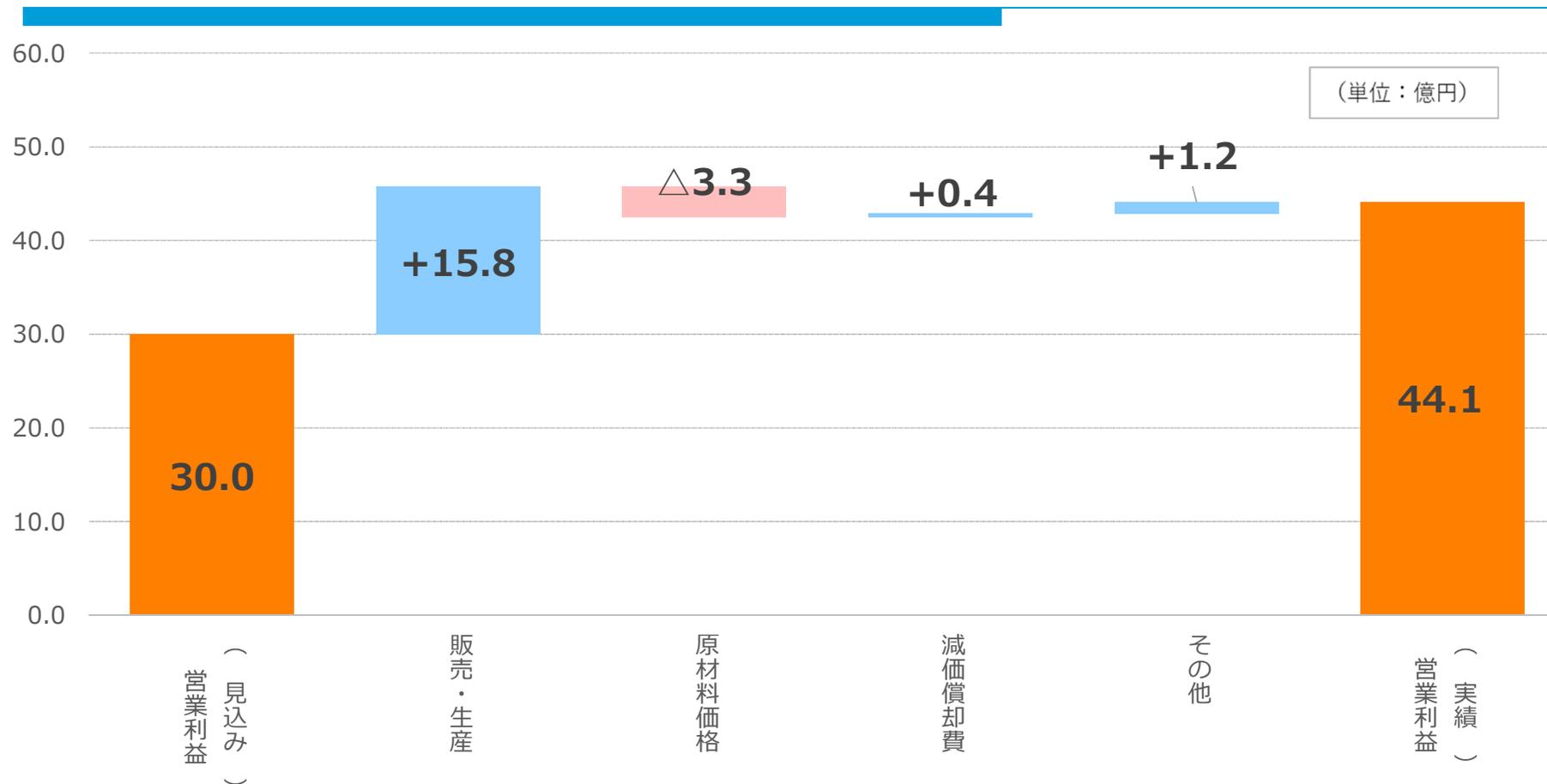
# セグメント別業績予想（連結） 上期予想と実績の比較

（単位：億円）

	売上高			営業利益		
	上期見込み	上期実績	差額	上期見込み	上期実績	差額
<b>基礎</b>	29	37	8	△1	△0	0
<b>精密</b>	207	219	12	30	39	9
<b>その他※</b>	30	24	△5	1	5	4
<b>合計</b>	266	282	16	30	44	14

※その他には、鉄系事業、商事事業、設備事業および連結調整を含みます。

# 連結営業利益差異分析(上期当初見込み 対 上期実績)



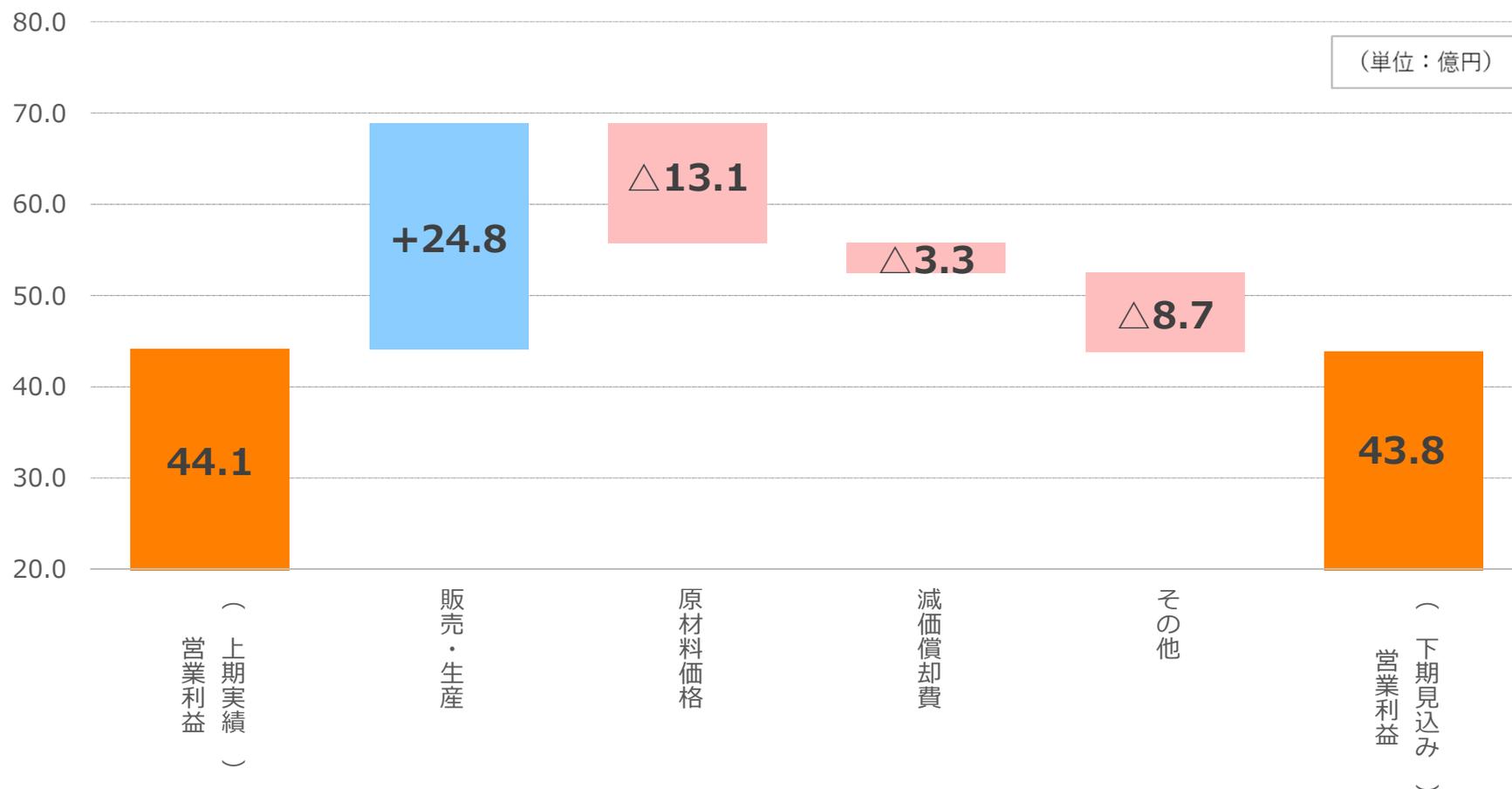
# セグメント別業績予想（連結） 上期下期比較

（単位：億円）

	売上高			営業利益		
	上期実績	下期見込	差額	上期実績	下期見込	差額
<b>基礎</b>	37	39	2	△0	△1	△0
<b>精密</b>	219	254	34	39	40	1
<b>その他※</b>	24	27	2	5	4	△1
<b>合計</b>	282	321	39	44	43	△0
<b>設備投資費</b>	53	106	52			
<b>減価償却費</b>	32	35	3			
<b>研究開発費</b>	7	8	1			

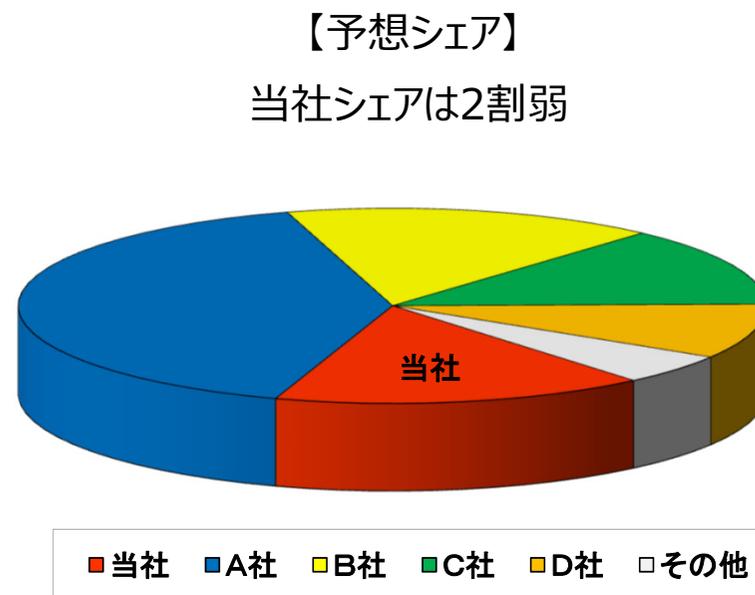
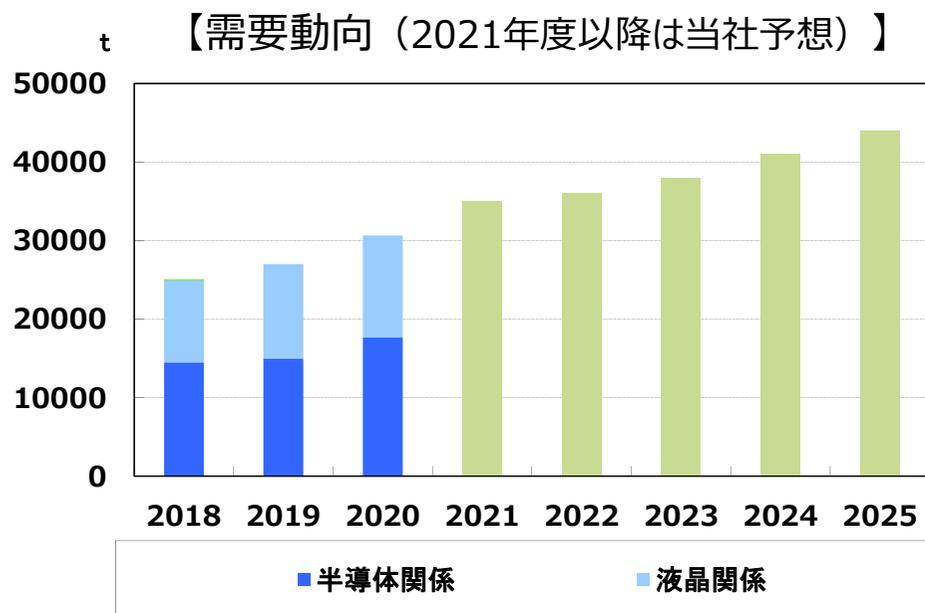
※その他には、鉄系事業、商事事業、設備事業および連結調整を含みます。

# 連結営業利益差異分析(上期実績 対 下期見込み)



## – 主な製品の見通し – 三フッ化窒素 (NF<sub>3</sub>)

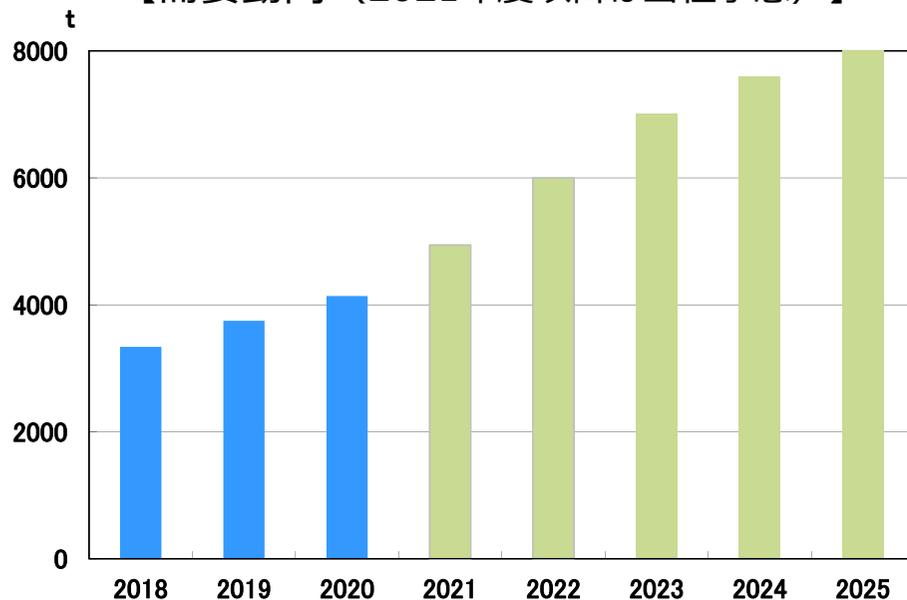
- 半導体・液晶製造プラズマCVD装置のチャンバークリーニングガス
- 製造能力 3,700t/年



## –主な製品の見通し– 六フッ化タンゲステン(WF<sub>6</sub>)

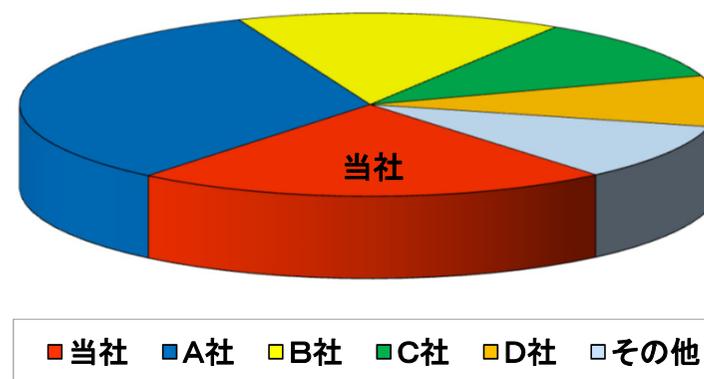
- 半導体用配線材料ガス。
- 製造能力720t/年（2016.11） ➡ 910t/年（2018.8） ➡ 1,400t/年（2019.10）

【需要動向（2021年度以降は当社予想）】



【予想シェア】

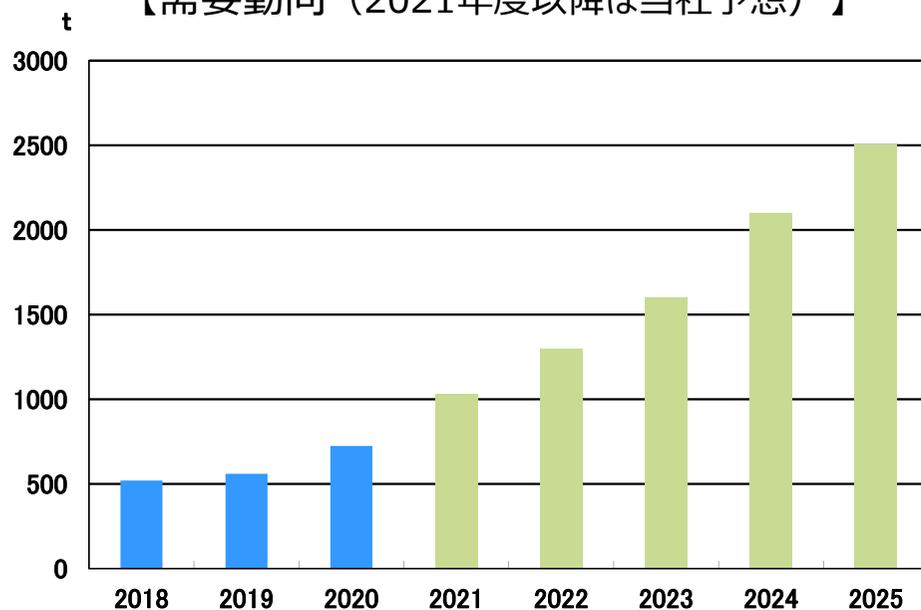
当社シェアは約3割



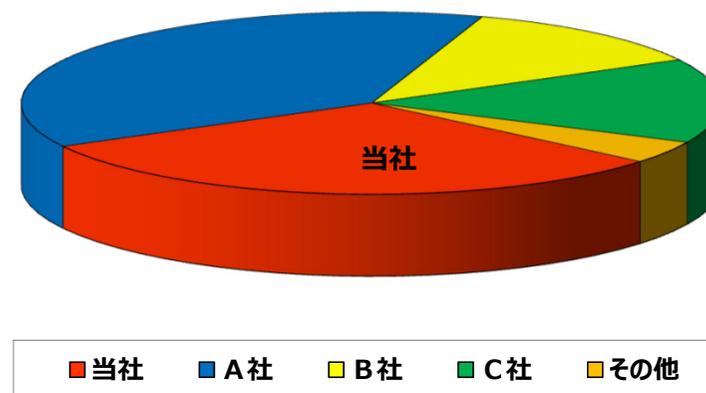
## - 主な製品の見通し - ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン(C<sub>4</sub>F<sub>6</sub>)

- 半導体用エッチングガス。
- 製造能力 125t/年 → 160t/年 (2018.12) → 260t/年 (2019.12) → 400t/年(2022.4予定)

【需要動向 (2021年度以降は当社予想)】

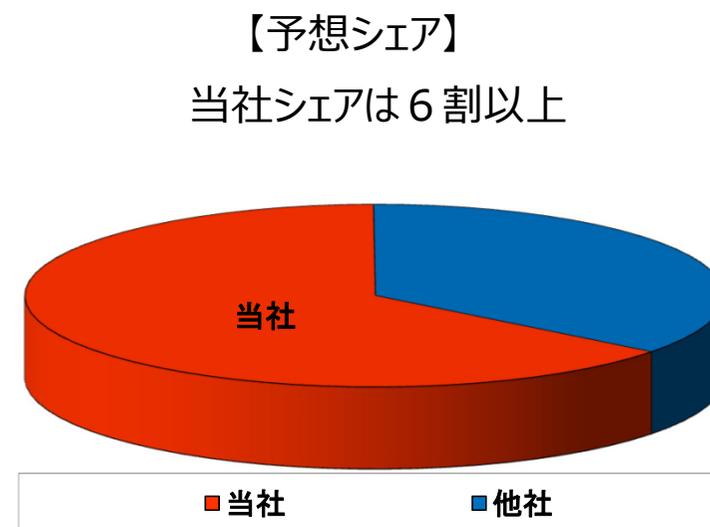
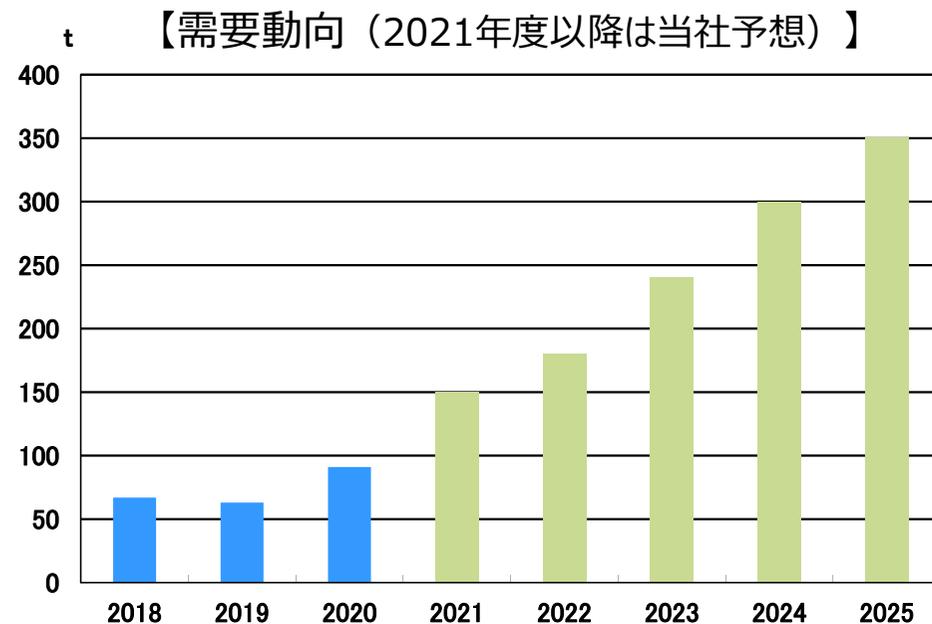


【予想シェア】  
当社シェアは約 3 割



## – 主な製品の見通し – 硫化カルボニル(COS)

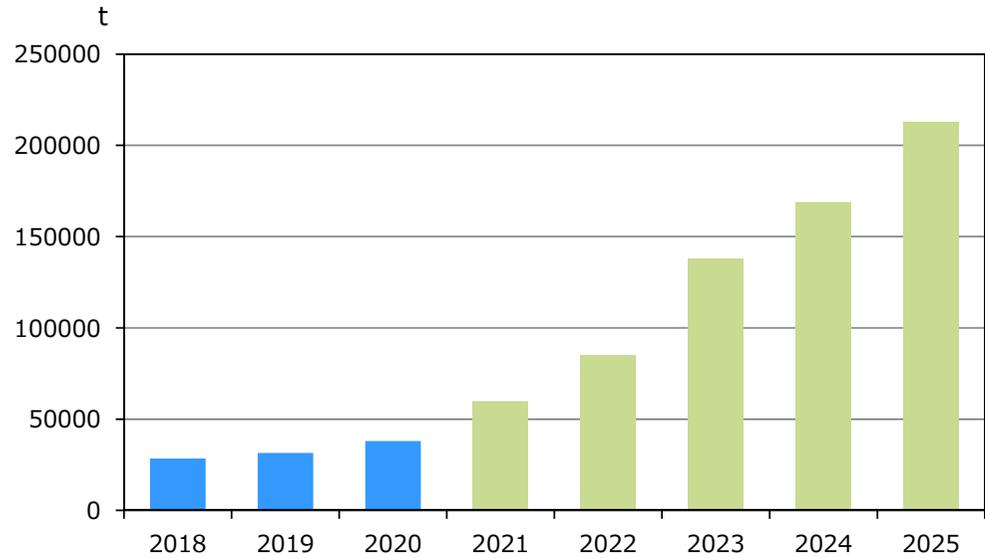
- 半導体用エッチングガス。
- 製造能力 40t/年 ➡ 80t/年 (2019.10) ➡ 150t/年 (2022年予定)



# – 主な製品の見通し – 六フッ化リン酸リチウム (LiPF<sub>6</sub>)

- リチウムイオン二次電池の材料である電解質
- E V等の車載向け需要が本格化
- 現在の製造能力は5,400 t /年

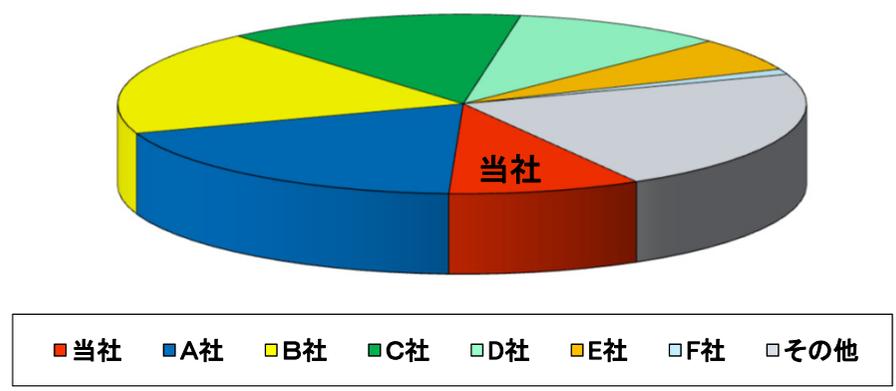
【需要動向 (2021年度以降は予想)】



【予想シェア】

当社シェアは約 1 割

**車載用電池**  
電池特性、安全性等の要求が強い  
**高品質のLiPF<sub>6</sub>**が必須となる



## – 海外生産拠点について – 関東電化ファインプロダクツ韓国(株)

### □ 所在地

大韓民国忠清南道天安市

### □ 事業内容

半導体・液晶用特殊ガス類の製造・販売

### □ 生産品目

- ・硫化カルボニル(COS)
- ・四フッ化炭素(CF<sub>4</sub>)
- ・三フッ化塩素(CIF<sub>3</sub>)



# - 海外生産拠点について - 宣城科地克科技有限公司

## □ 所在地

中華人民共和国安徽省宣城市

## □ 事業内容

半導体・液晶用特殊ガス類の製造・販売

## □ 生産品目

I 期工事\* : フッ化アンモニウム

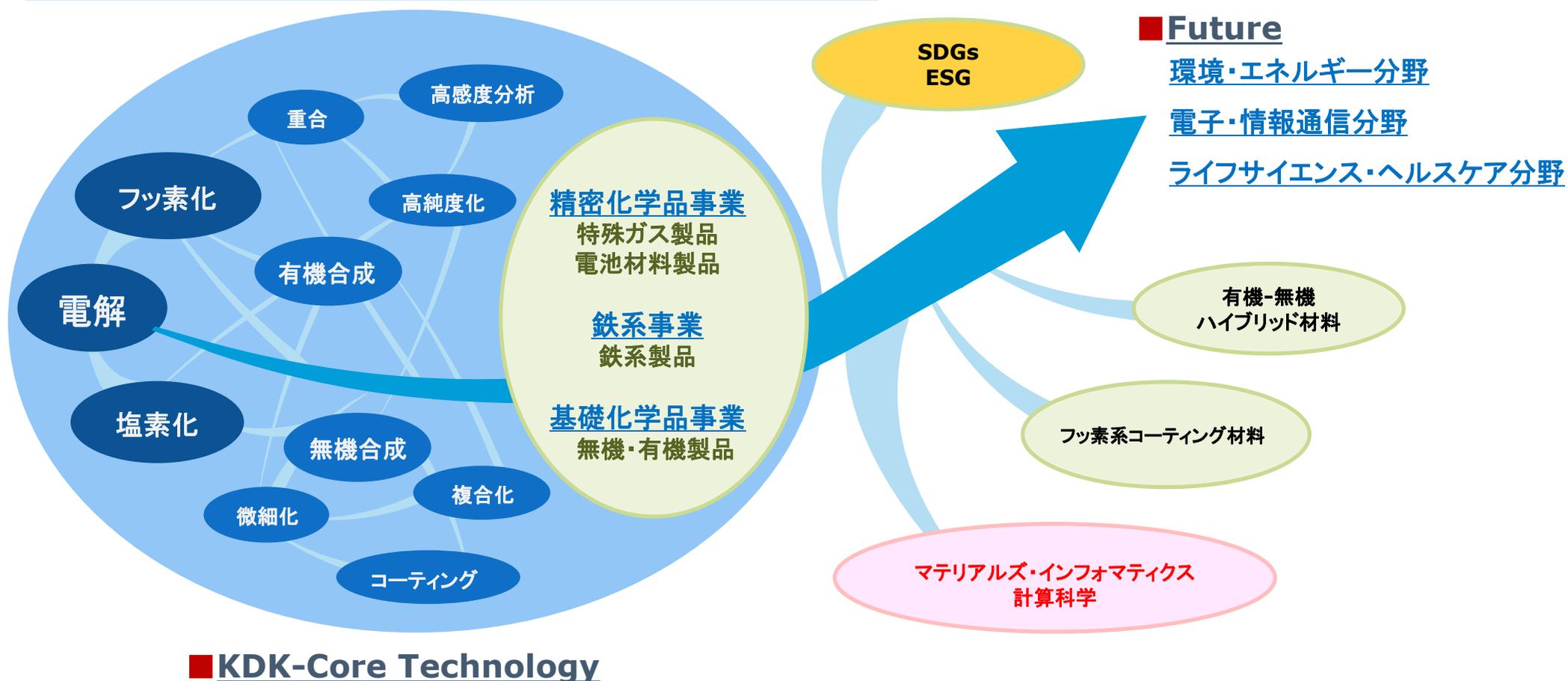
II 期工事

- ・六フッ化タンゲステン(WF<sub>6</sub>)
- ・四フッ化炭素(CF<sub>4</sub>)
- ・ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン(C<sub>4</sub>F<sub>6</sub>)

\* : 2022年稼働開始予定



# 当社技術と事業方向性



## 注意事項

---

- 本資料は、金融商品取引法等のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なります。